

神言

高天原に神つまります、大天主太神の命もちて、八百万の神たちを
神集へに集へたまひ、神議りに議りたまひて、伊都の大神、美都の大神
は豊葦原の水穂の国を、安国と平けく所知食さむと天降りたまひき。
かく天降りたまひし四方の国中に荒振神たちをば、神問しに問したま
ひ、神掃ひに掃ひたまひて、語問し磐根樹根立草の片葉をも語止めて、
天之磐座放ち天之八重雲を伊都の千別きに千別きて天降りたまひき。か
く天降りたまひし四方の国中を、安国と定め奉りて、下津磐根に宮柱太
敷立て、高天原に千木多加知りて、皇大神の美頭の御舎仕へ奉りて、天
の御蔭日の御蔭と隠りまして、安国と平けく所知食さむ国中に成出でむ
め、ひはなち、しきまき、くしさし、いけはぎ、さかはぎ、くそへ、こ
こたくの罪を、天津罪と詔りわけて国津罪とは、生はだだち、死はだだ
ち、しらひとこくみ、己がははをさせる罪、己が子をさせる罪、ははと
子とをさせる罪、子とははとをさせる罪、畜をさせる罪、昆虫の災、
高津神の災、高津鳥の災、畜たふし蠱物せる罪、ここたくの罪出で
む。かく出でば天津宮言もて、天津金木を本打切り末打ち断ちて千座の

置座おきくらに置足おきたらはして、天津菅會あまつすがを本刈り断ち末刈り切りて、八針やはりに取裂き
て、天津祝詞あまつのりとの太祝詞言ふとのりとごとを宣れ。かく宣らば天津神あまつかみは天の磐戸いはとを推披おしひら
て、天あめの八重雲やへくもをいつの千別ちわきに千別ちわきて、所聞食きこしめさむ、国津神くにつかみは高山たかやま
の末すえ、短山ひきやまの末すえに上りまして、高山たかやまのいほり、短山ひきやまのいほりを搔別かきわけて
所聞食きこしめさむ、かく所聞食きこしめしては罪つみといふ罪つみはあらじと、科戸しなどの風かぜの天あめ
八重雲やへくもを吹放ふきはなつことの如ごとく、朝あしたの御霧夕みきりゆふべの御霧みきりを、朝風夕風あさかぜゆふかぜの吹掃ふきはらふこ
との如ごとく、大津辺おおつべにをる大船おほふねを舳解放へときはなち臚解放ともときはなちて大海原おおわたのはらに押放おしはなつこと
の如ごとく、彼方をちかたの繁木しげきが本もとを焼鎌やきがまの敏鎌とがまもて打掃うちはらふことの如ごとく、遺る罪のこは
あらじと祓はらひ給たまひ清めたまふ事ことを、高山たかやまの末すえ、短山ひきやまの末すえより、さくなだ
りに落ちたきつ速川はやかはの瀬せにます瀬織津比売せおりつひめといふ神かみ、大海原おおわたのはらに持出もちいでな
む、かく持出もちいで往いなば、荒塩あらしほの塩しほの八百道やほぢの八塩道やしほぢの塩しほの八百会やほあひにま
す、速秋津売はやあきつひめといふ神かみ、持可々もちかかの呑みてむ、かく可々かかの呑みては、氣吹戸いぶきどに
ます氣吹戸主いぶきどぬしといふ神かみ、根ねの国底くにそこの国くにに氣吸放いぶきはなちてむ。かく氣吸放いぶきはなちて
は、根ねの国底くにそこの国くににます速佐須良比売はやさすらひめといふ神かみ、持佐須良比失もちさすらひうしなひてむ、
かく失うしなひては、現身うつそみの身みにも心こころにも罪つみといふ罪つみはあらじと、祓はらひたま
へ清めたまへと白まをすことを所聞食きこしめせと、恐かしこみ恐かしこみも白まをす。